

陶芸用電子機器メーカーの(株)アンテックは、火災センサー事業が伸張している。消防法の改正で来年6月からすべての新築住宅に火災報知器の設置が義務づけられ、既存住宅についても順次設置義務が生じてくるが、同社が開発した「放火・火災検出センサー」は住宅メーカーなど業界に大きな反響を呼んでいる。

「熱や煙を検知する従来の報知器とは違い、御社が開発したセンサーはライター程度の炎でも5m離れた位置から瞬時に炎を検知する高精度なものです。具体的な特長は

「従来の火災報知器は火災と判断するまでに時間がかかるという弱点がありました。当社が開発したセンサーは炎に含まれる紫外線を直接検出することから感知までの時間が極端に短いという特徴があります。火災発生を早い段階で把握でき、大事な家や家財道具を守る初期消火にはとても有効な手段です。陶芸で培った炎監視技術は太陽光の影響を受ける事もなく屋外での使用が可能で、ほんのわずかな炎にも反応します。また、新たに開発した特殊フィルターはコンロや蠟燭など日常的に使用される炎から放出される微細な紫外線には反応しませんが、火災に匹敵する強さの炎にだけ

け反応し、台所など火をよく使う場所でも誤作動なく使用できます」

「放火のように自分には、全く非が無くても巻き込まれてしまう火災もあります。当社のセンサーの最大の特徴は太陽光に含まれる紫外線の影響を受けないということです。防塵防水規格IP64を取得していますので、そのままの状態でも屋外に設置でき、放火の検出に効果を発揮します。不審火を検知すると同時に予め登録した携帯電話に画像や電子メールを自動送信するシステム(パナソニックモバイルコミュニケーションズ/松下制御とのコラボ)

も実用化しています」
「仏壇専用の火災検出センサーも開発、性能と信頼性で注目を集めています」

「仏壇内部にセンサーを設置し、紫外線の検知部分に特殊フィルターを張り付け、感度を極端に低下させることで、通常の位置に立てた蠟燭やライターなどの小さな炎には反応しませんが、火災と判断される大きさの炎を検知し、ブザー音で異常を知らせます。火災検出センサー付き仏壇は、仏具販売の中原三法堂(倉敷市羽島)と提携し、同社が販売を開始しています」

「今後の構想は
「紫外線を検知するセンサーの火災報知器への応用はまだまだ認知度が低いのですが、検知速度などの優位性をPRすることで、販売拡大につなげたいですね。自分が創りたいものを創るというスタンスは変わりません。独自の技術知識と『なんでも自分たちでできる』というポジティブな自信と技術者魂が今後のアンテックの一番の財産になるのではないかと思っています」

▽末石建二 1961年生まれ。近畿大学第二工学部卒業後、医療機器メーカーに入社、開発部に所属、設計の仕事に携わっていたが81年独立、87年株式会社アンテックを設立、代表取締役就任。現在、美作大学で非常勤講師も務める。

▽(株)アンテック 瀬戸内市邑久町豆田116-3
電話 08692・2・2155

世界最高性能・通信機能付 放火・火災報知器を開発

〔株〕アンテック社長

末石建二さん (44)

平成17年10月5日 ジャストタイム

